

「 真 理 の 御 霊 が 来 る 時 」

エレミヤ書 第31章 12節～14節  
ヨハネによる福音書 第16章 12節～15節

説 教 岡村 恒牧師

主イエス・キリストが、弟子たちと最後の晩餐を囲んでいます。その夜の食事は、ユダヤ人にとって年に一度の特別なものでした。神は、かつて奴隷であった彼らの先祖を、モーセを遣わしてエジプトの地から救い出されました。この出エジプトの出来事を思い起こしながら、家族が集まって食事をするのです。〈神がどれほど深く自分たちの先祖を愛されたのか、また今ここにいる自分たちを愛しておられるのか〉を確認して、喜び祝う祭りの夜です。この過越の祭の時、ユダヤ人の心は高揚します。

ところがこの夜は、最初から主イエス・キリストの様子が違っていました。食卓に着くなり、腰から手ぬぐいを下げ、たらいに水を汲んで、弟子たちの足を洗い始めます。やがて、私はあなたがたの元を去ると語られます。あなたがたの内に私を裏切る者があると宣告され、ペテロに向かっても、あなたは鶏が鳴く前に三度私を知らないと言うと、とても恐ろしい話をされます。あのペテロでさえ、イエス・キリストを知らないというような状況が待っており、主イエスが弟子たちから取り去られる時が来ると聞かされて、弟子たちは恐れ悲しんでいます。そして最後の晩餐が終わりに近づく頃、主イエス・キリストは、弟子たち一人一人を深く心に留めながら、「真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。」(13節)とお語りになりました。しかし、別れの悲しみに覆われた弟子たちは、主イエスの言葉を受け止めて、理解することなどできませんでした。

やがて、この「真理の御霊が来る時」が訪れます。弟子たちの上に神の霊、主イエスキリストの霊が注がれて、弟子たち一人一人に留まることとなります。それまで主イエス・キリストのお言葉やなされた奇跡の意味を少しも理解できなかった弟子たちは、その聖霊を受けて初めて全ての真理を受け止めます。神の独り子、救い主イエス・キリストの受難、十字架での死と復活によって、神が私たちに示された計り知れない愛の真実を信じて生きようになるのです。

主イエス・キリストを信じて洗礼を受けた者には、約束の賜物として聖霊が注がれます。主イエスは「御霊はわたしに栄光を得させるであろう。」(14節)と言われました。聖霊によって、私たちは魂の奥底から主イエス・キリストについて本当のことを知ります。「栄光」とは元の言葉では重さを表します。主イエス・キリストは、決して揺らぐことの無い、全知全能の神と等しいお方です。神は、罪を犯すこと以外のあらゆる点において私たちと同じ人間として、その独り子、主イエス・キリストを地上に遣わされました。ただ遥か彼方で私たちを思い遣るのではなく、主イエス・キリストご自身が、私たちが味わう痛み、私たちが抱える悲しみの一切を経験なさいました。そればかりか、罪によって神に棄てられる絶望さえも身に受けられて、私たちの身代わりとなられたのです。これが聖書の語る〈あがない〉、罪の赦しです。

御子イエス・キリストを信じる者はもはや、罪の代償である滅びの裁きを受ける必要が無いのです。罪の赦しの洗礼によって、御霊を注がれた者は、私たちの理解を越える神の恵みと栄光を知ります。そして終わりの日には、主イエス・キリストと共に神の国の世継ぎとして全ての栄光を受け取るのです。

今日は長寿者祝福の礼拝です。豊かに地上の旅を祝福された兄弟姉妹方と共に喜びの日です。神を賛美して共に歩む多くの人々が大阪教会に与えられたことに感謝して、既に眠りに就いた兄弟姉妹方と共に神の国の食卓を囲む日を楽しみにして祝います。また、もっと多くの人々が教会に導かれて、神を誉め称えて歩む日々を与えられるように祈ります。まだ洗礼を受けておられない方、幼児洗礼を受けた後、信仰告白式を経ておられない方が、どうか一日も早く聖霊を受ける日を迎えられるように共に願い求めます。真理の御霊を注がれて、新たに神の愛と恵みを受け止めて歩む喜びに全ての人が招かれています。

(記 説教要約奉仕者)